

13年前、私は目の周りの筋肉が機能しなくなるという病気を診断されました。瞼が自然に落ちてきてしまうため、車や自転車に乗ることはもちろん、外を歩くことや聖書を読むことさえ困難になりました。

2.5ヶ月に一度、打てる最大量のボトックスの注射を打ちながら、何とか日々の生活を送っていましたが、祈っても祈っても癒しは与えられず、失望はつのり、神様への怒りがどうしても溢れてくるのでした。

聖書を読んでも空々しく感じられ、ふと「悪魔なら、この病を癒すことができるだろう。」と思ったこともあったほどです。

妹が日本で RAK トレーニングを受け、電話を使って「感情の癒し」の祈りを導いてくれました。その時の私の思いは「私は肉体の癒しを必要としているのであって、感情の癒しを求めているのではない。」という否定的な思いでした。でも、この祈りのセッションを通して、13年間、薬が切れるたびにどうしようもなく沸き起こってきていた神様への怒りが完全に取り去られたのです。自分でも驚くほどに、あの時の怒りや失望がきれいになくなり、もう戻ってくるものがなくなったのです。

感情が癒されることによって、肉体にも変化が起こり始め、私は今、家族と一緒にサイクリングやジョギングに行くことを日々楽しんでいます。何より、神様の愛をもっと感じる事が出来るようになりました。

同時に、私の信仰生活は単に聖書を読むだけでなく、御言葉を思い巡らし、主に聞き、それに従うという生活に変わりました。これは RAK が大切にしていることです。「妻たちよ、主に仕えるように、自分の夫に仕えなさい。」(エペソ 5:22) 何度も読んだ御言葉でしたが、改めて「主に仕えるように夫に仕えるとはどういうことなのですか？」と主に聞く必要がありました。思い巡らし、主に聞き、それに従うという生活の中で、何よりも自分が変えられたのでしょ、夫婦の関係も、そして私達夫婦が子供達に与える影響も変わってきたように感じます。御言葉が空々しく感じていた苦しかった時期を思い返すと、今は御言葉が生きて感じられ、主を身近に感じられるように大きく変えられたことに感謝せずにいられません。